

第 156 回日本ユネスコ国内委員会教育小委員会の報告

1. 開催日時: 令和7年7月31日(木) 14:30~16:30 (オンライン開催)

2. 主な議論

(1) 最近のユネスコ関係の動き(教育分野)

第 221 回ユネスコ執行委員会の結果概要及びキックマン株式会社によるユネスコへの寄附について報告。

寄附に関して、寄附活用による成果やインパクトを提示することが寄附者の納得感やユネスコ活動への理解の深化に繋がるといった指摘や、企業の関心を引くには子供の変容を見せる機会を作ったり、賞の認知度を向上させ魅力を高めたりすることが寄附促進に寄与するとの意見が出された。情報発信に関しては、ESD 賞の受賞式を多言語字幕付きで YouTube 配信することが提案された。

(2) 最近の ASPnet(ユネスコスクール)関係の動き

ユネスコスクール・キャンディデートの加盟申請状況、昨年度実施したユネスコスクール定期レビュー・年次活動調査の結果及び今年度実施予定の全国大会・地方セミナー及び国際交流事業について報告。

ユネスコスクールの国際交流を促進する方策については、交流を希望する学校リストの整備や、JICA 等の外部団体が実施する出前授業の活用、交流の継続性を確保する仕組みづくりの必要性が提案された。また、地域の外国人との交流や多文化共生の視点を重視する意見も出された。

(3) 日本ユネスコ協会連盟・地域のユネスコ協会におけるユネスコ教育分野の活動

小山田委員より、日本ユネスコ協会連盟で取り組んでいる U-Smile 事業等について紹介があった。その後、成田委員より、地域のユネスコ協会における 2023 年ユネスコ教育勧告の普及に関する活動について紹介があった。

U-Smile 事業について、ICT を活用した学習支援が教育格差の解消に役立つ一方で、具体的な体験や人との触れ合いの機会も大事であり、両者を上手く組み合わせた取組の重要性が指摘された。また、2023 年ユネスコ教育勧告の普及活動については、地域のユネスコ協会の活動に感謝し、今後も活動報告を求める意見があった。

(4) その他

日本のユネスコ加盟 75 周年に向けて事務局で検討している活動について報告。

記念イベントの登録募集に関し、登録可能な団体の条件について整理して示して欲しい旨の意見があった。また、ジオパークやエコパークなどの地域資源を活用した教育活動を盛り上げることの重要性が指摘された。

3. 配付資料: https://www.mext.go.jp/unesco/002/006/002/001/shiryo/1414099_00024.htm

第 14 回日本ユネスコ国内委員会文化・コミュニケーション小委員会の報告

1. 開催日時: 令和7年8月4日(月) 10:00~11:30 (オンライン開催)

2. 主な議論

(1) 最近のユネスコ関係の動き(文化・コミュニケーション分野)

ユネスコ第 221 回執行委員会では、文化と芸術教育に関するフレームワーク、2025 年9月開催予定の MONDIACULT2025、「世界の記憶」の新規国際登録案件等について議論されたことを報告。このうち、MONDIACULT2025 については、2030 年以降の持続可能な開発アジェンダの可能性にも考慮しつつ、文化的権利や文化セクターにおけるデジタル技術等の6つのテーマについて議論される予定であることを報告。

(2) 世界の記憶

「世界の記憶」国際登録 2024-2025 サイクルでは、我が国から「増上寺が所蔵する三種の仏教聖典叢書」が新たに登録され、一方で「広島原爆の視覚的資料—1945 年の写真と映像」の登録は見送りとなったことを報告。また、2026-2027 サイクルに向けた国内公募の実施及び 2028-2029 サイクルから導入予定の暫定一覧表制度に関する検討状況についても報告。

(3) 世界文化遺産

第 47 回世界遺産委員会において、世界遺産一覧表への記載に係る審査や、資産の保全状況に係る審査、危機遺産一覧表の更新等について議論されたことを報告。特に「古都奈良の文化財」の資産範囲の明確化や「佐渡島の金山」に係る普遍的価値の言明の採択について説明と質疑が行われた。

(4) ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)

日本からの新規加盟申請都市(越前市・高松市)について、ユネスコによる加盟認定の結果公表が遅延していることのほか、名古屋市より、フランスで本年6月に開催された UCCN 年次総会及び 10 月に山形市で開催予定の UCCN・CCNJ 国際ネットワーク部会の合同会議の開催について報告。UCCN における漫画・アニメの取扱いや、国による戦略的申請の可能性、AI の活用事例、オーバーツーリズムとの関係等について議論された。

(5) その他

日本のユネスコ加盟 75 周年に向けた記念事業について、事務局の検討内容を報告。ユネスコ活動の意義の再確認や一般国民が共感できるような普及活動の重要性が指摘されたほか、著名人の起用やフォーラム開催等の具体的な広報施策案が提案された。特に、若い世代に向けて、生活に身近な方法により、平和に関するメッセージの普及等の必要性が指摘された。

3. 配付資料: https://www.mext.go.jp/unesco/002/006/002/004/shiryo/1416641_00013.htm

以 上

第 14 回日本ユネスコ国内委員会科学小委員会の報告

1. 開催日時: 令和7年7月25日(金) 10:30~12:00 (オンライン開催)

2. 主な議論:

議題1 最近のユネスコ関係の動き(科学分野)

(1) 政府間海洋学委員会(Intergovernmental Oceanographic Commission: IOC)

道田委員から、第 76 回科学小委員会 IOC 分科会(6/17 開催)、第 33 回 IOC 総会(6/25 から 7/3 開催)、第3回国連海洋会議(6/9 から 6/13 開催)をはじめとした国内外における「国連海洋科学の 10 年」に関する動向、IOC 西太平洋地域小委員会(IOC WESTPAC)や IOC の各事業の動向等について報告。IOC 総会で道田委員が IOC 議長に再任され、日本が執行理事国として引き続き IOC の運営に関与することとなった旨報告。

(2) 政府間水文学計画(Intergovernmental Hydrological Programme: IHP)

沖委員長/IHP 分科会主査から、IHP50 周年・IHD60 周年記念行事として3月に東京大学で開催されたシンポジウム「水文学の最先端と変化する世界における水安全保障への貢献」、6月にユネスコ本部で開催された記念行事と日本主催のサイドイベント、ICHARM(水災害・リスクマネジメント国際センター)や大学による取組について報告。

(3) 人間と生物圏(Man and the Biosphere Programme: MAB)計画

9月に中国で開催される第5回生物圏保存地域世界会議及び第 37 回 MAB 計画国際調整理事会における新たな戦略・行動計画の策定や、国内のユネスコエコパークや大学による共同研究や連携強化の取組について事務局から報告。

(4) ユネスコ世界ジオパーク

菅原委員から、Mine 秋吉台ジオパークの新規申請、糸魚川、島原半島、隠岐、伊豆半島の再認定審査ほか国際的な動向と、国内におけるジオパーク関連の動向について報告。

(5) ニューロテクノロジーの倫理に関する勧告

本年 11 月のユネスコ総会で採択が予定されている本勧告の最終草案の概要と、5月にユネスコで開催された本勧告の政府間特別委員会について事務局から報告。

議題2 ユースの科学分野の取組

文部科学省ユネスコ研修プログラムで本部自然科学局防災ユニットで研修を行った京都大学博士課程・佐藤氏から研修成果と今後の展望について、また次世代ユネスコ国内委員会の五十嵐委員から科学WGの活動と今後の方針について報告・意見交換。

議題3 その他

日本のユネスコ加盟 75 周年に向けて事務局で検討している活動について報告。

加盟 75 周年を機に、ユネスコの科学分野の取組について、各分野の専門家だけでなく、より幅広い層に関心を持ってもらうための工夫の重要性が指摘された。

3. 配布資料:https://www.mext.go.jp/unesco/002/006/002/003/shiryo/1416775_00019.htm

以 上